

THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO-GREEN

東京グリーン

CHARTERED 1973

< 2018.09 >

BULLETIN

2018年7月～2019年6月



国際会長	Moon Sang Bong「私たちは変えられる／挑戦への勇氣」(韓国)
アジア会長	田中博之「アクション／誇りと喜びを持って」(東日本区)
東日本区理事	宮内友弥「為せば、成る／ワイズが何をしてくれるかではなく、あなたがワイズに対して何が出来るかを考えて実行しよう」(東京武蔵野多摩)
関東東部部長	衣笠輝夫「良いものを見つけ、つなげて、よくなる」(埼玉)
クラブ会長	佐野 守「希望を持って前進」(グリーン)

会 長 佐野 守
副 会 長 西澤 紘一
々 浅見 隆夫
書 記 布上征一郎
会 計 柿沼 敬喜
副 会 計 浅見 隆夫
担当主事 木村 卓司

9月 スポーツの秋

神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。
(フィリピの信徒への手紙3:14)

2018年09月 第一例会

日時:2018年09月19日(水) 18:30～20:30
場所:東陽町センター 1階 YMCA ホール
江東区東陽 2-2-201 TEL03-3615-5565
受付:森川君/司会:布上君

開会点鐘	佐野会長
ワイズソング・ワイズの信条	全 員
聖句・お祈り	古 平 君
ゲスト、ビジター紹介	佐野会長
食 事(一言添えてニコニコ献金)	
ゲスト・スピーチ	紹介 佐野会長
佐野 和夫 氏	
演題「東京五輪・パラリンピック 2020 への道」	

神田川船の会報告 目黒実行委員長
YMCA 情報 木村 君
Happy Birthday<西澤メン・佐野メネット・
早瀬メン・早瀬メネット>
閉会点鐘 佐野会長

* 第一例会は東陽町 YMCA ホール。第二、第三例会は従来通り秋葉原、千代田区和泉橋区民館です。

【例会出席率】 在籍:18名 メーキャップ 2名
出席率 15/18 83%
出席: 8月 (メン13名、メネット1名、ビジター3名)
計17名
【ニコニコ】 8月例会 (納涼例会で献金なし)

ユース強調月間

「ユース事業の行方」 ユース事業委員長 西澤紘一



私の20歳代を振り返ってみると当時の日本はまだ貧しく、誰もが上昇意識を持ち将来の希望を語っていた。

1940年代から始まる高度成長期の中で人口の増加とそれに伴う経済の拡大を享受してきた。さらに時の権力者や指導者に対しても厳しい批判を浴びせ若者こそ時代を作ってゆくのだと言う過剰なまでの自負心を持って反抗をしてきたように思う。大学だけではなくYMCAや教会の中でも同じような現象があった。翻って、現在の日本を眺めると人口減少社会を迎え経済も縮小均衡を示し始めている。若者に限らず、日本人全体が目標や夢を無くしつつあるように見える。五木寛之の『孤独のすすめ』の中では、老いの問題として捉えているが日本社会の現実も今や下山(老い)の時代に入ったと規定している。登山において、下山は登坂より難しいとされている。しかし、下山時には登坂時に見られなかった周囲の景色や気持ちの変化をじっくり楽しむ事ができる。

「最近の若者は！」という前に、時代背景が根本的に異なってきたり、かつ新しい価値観や評価尺度が出てきている事を昔のYメンバーとして素直に認めたいと思う。

私たちが経験した安保闘争や全共闘などの激動の時代ではなく、成熟した安定・平和な時代の中であって若者が懸命に未来を模索している行動を静かに見守り、黙って支援する事であろうと思う。今の若者たちは、私たちがかつて見た登坂時の景色とは全く異なる景色を見て居ると思うからである。

＜2018年08月 納涼例会 報告＞

日時:2018年08月22日(水) 18:00～21:00

場所:銀座ライオン(秋葉原店)

出席:青木・浅見(ク)・浅見(隆)・柿沼・木村・佐野・西澤・西本(東)・西本(晃)・布上(征)・樋口・目黒・森川 ネット:布上(信) 14名

ビジター:衣笠輝夫 関東東部部長(埼玉クラブ)

金丸満雄 会員増強事業主査(東京ひがしクラブ)

佐竹 誠 関東東部ユース事業主査

(東京ベイスайдクラブ)



初めての参加で楽しみにしていた「納涼例会」が西本メンのお力添えを得て8月22日銀座ライオン(秋葉原店)で開催されました。浅見クミ子メンの司会で開会点鐘、聖句・食前の感謝を行い、公式訪問衣笠輝夫関東東部部長の到着を待つ間に浅見隆夫直前会長に会長慰労としての記念品の贈呈。浅見直前会長の希望で水彩画用道具一式を佐野会長の手から差し上げました。

続いて金丸会員増強事業主査からはにこやかにグリーンクラブの活動を認めるご挨拶を、若く頼もしい佐竹ユース事業主査からはご自分たちの会の将来も交えての力強いご挨拶をいただきました。嬉しい限りです。衣笠部長の到着を待たずに会食を始めました。

めいめいに前菜、サラダ等次々に運ばれてきて一同びつくりしながらアルコールも入って更にグリーンクラブらしい雰囲気になりあちこちで楽しい会話が聞こえます。

私の前には金丸、佐竹主査のお二人がいらして金丸主査とは家庭菜園のトマト栽培について、佐竹主査とは越谷出身とお聞きし私も以前住んでいたの越谷の話の厚かましくもさせていただきました。衣笠部長もいらしてご挨拶をいただき会は益々盛り上がりました。もちろんグリーンクラブの将来の話もしましたし、新参者の私が早く慣れるよう助言もいただきました。声をからしての事業委員会報告は短時間で終わりました。

8月のハッピーバースデーは浅見隆夫メンと私でした。ありがとうございました。和気藹々、猛暑も忘れるひと時でした。もう来年の8月を楽しみにしている森川です。

(森川正子 記)

＜2018年08月 第二例会 報告＞

2018年08月08日(水)に予定されていた「役員会」は関東地方への大型台風接近があり急遽中止となりました。クラブ関係の連絡事項はメール送信にて了解としました。

【確認事項】

①東京YMCA夏まつり

8月25日(土) 10:00東陽町集合<フランク焼き>

*ラッフル抽せん会:10/13「神田川船の会」
ペア乗船チケット2組提供(4名)

②第32回インターナショナルチャリティーラン

9月23日(日) 8:30集合木場公園 場内警備・荷物係

*ラッフル抽せん会:10/13「神田川船の会」
ペア乗船チケット2組提供(4名)

③第78回神田川関連 10月13日(土)開催詳細

乗船者募集開始 ワイズ関連ほか、PRを積極的に。

④ 2018年9月9日 京都部会参加

*京都パレスクラブ/熱海クラブとトリアングル締結
*部会参加者 青木・浅見(隆)・柿沼・佐野・布上 5名

⑤「前期会計報告と今期クラブ予算案」協議

柿沼会計 例会で配布

⑥ 8月例会日変更:8月22日(水)納涼例会

「秋葉原ライオン」18:00～ 予約:西本メン一任
*衣笠部長・金丸主査・渋谷主査・佐竹主査公式訪問

⑦9月例会卓話者:佐野メン紹介

佐野和夫氏(パラリンピック2020への道)

10月例会卓話者:樋口メン紹介

青木勝彦氏「私の追憶の名画」決定

11月例会卓話者 西澤メン、紹介可能

(布上 記)

【理事メッセージ】東日本区理事通信 9/1号

東日本区理事 宮内友弥(東京武蔵野多摩)

残暑お見舞い申し上げます。

8月例年より1週間遅れの8月9日～8月12日に開催された第73回国際大会に行ってきました。会場は韓国南部の麗水(Yeosu)、現国際会長の地元で参加者約3,000名の内2,600名が韓国からの参加。(大会主催者側から正式発表が無いため推則では、東西日本区で90名の参加者)。

初日のオープニングセレモニーでは、ムン大統領のメッセージを筆頭に国会議長、知事、麗水市長ほかのお歴々の挨拶、2日目は分科会ほか、3日目は地域毎のコンファレンスほか、4日目はクロージングでバランタイン賞を受賞の藤井元国際会長の受賞挨拶がありました。

今回の大会は、国際大会ではありながら韓国の地域大会的色彩を強く感じられるものでした。しかし一方で韓国ワイズダムのバイタリティーを感じさせられる大会でした。韓国の勢いに負けぬよう我が東日本区も頑張りましょう。

ご存知のように国際ではワイズ 100周年を2022年に迎えます。区としても2022年に向けて東日本区スタート時の1,248名への復活を目標にして、部エクステンション委員会にご尽力をいただけるようにサポート体制を整えるべく準備しております。各メンバーの皆様にご配慮をお願いいたします。(理事通信第3号巻頭より転載)



加藤利榮ワイズ邸庭園で恒例の 2 クラブ納涼例会に今年もお誘いをいただき参加してまいりました。8月21日(火)18:30 台風の影響で雨予報は一転素晴らしい快晴、昼の酷暑を吹き飛ばす涼風と月光のもと約 50 名が集いました。



当初は変なオジンとオパンが大勢集まりワイズソングを歌い、夜更けまでガヤガヤと談笑しご近所から苦情が寄せられたと伺いましたが、流石に 21 回開催となると受付準備・飲み物・料理配膳はスムーズで、定刻に開会しました。

昨年は鎌倉クラブの入会式、今年は横浜とつかクラブの入会式が部長立会で厳かに執り行われました。入会者は皆様良くご存知の仙台クラブ岡久雄メンのご子息でした。

毎度のことながら各種飲み物・美味しい豊富な手料理の数々、東日本区の役員を降りてからは滅多に他部のメンとお会いする機会は減りましたが時の隔たりを感ずる間もなく一気に盛り上がりました。

ワイワイガヤガヤ、アッと云う間に楽しい時は過ぎ家路につきました。明日はグリーンクラブの納涼例会、久しぶりの宴会三連チャンで現役に戻った気分でした。(浅見隆夫 記)

Happy Birthday

9月 西澤紘一(メン) 佐野弘子(メネット)
早瀬仁人(メン) 早瀬弘美(メネット)

クラブの円滑な運営のため、年会費をお納め下さい
京葉銀行 こてはし台支店

店番号 435 (普)6614121
口座名 東京グリーンワイズメンズクラブ
会計 柿沼敬喜



2018年8月25日(土) 恒例のYMCA夏まつりが東陽町で開催された。酷暑の中、各模擬店のワイズは前日から会場準備及び自分の店の飾りつけや仕込みの準備で大奮闘。今年のグリーンはフランクフルト焼きオンリーで勝負した。食べ物、遊戯含めて16のお店が出て、来訪者も例年よりやや少なめに感じたが益金は総額37万円程度、グリーンは売上34300円、利益17205円を寄贈出来た。柿沼メンの提供したカブトムシも大好評。



参加者は青木・浅見T・佐野・柿沼K・柿沼S・木村・布上S・布上N、ヘルプはにほん語学院から男子生徒1名。皆さんご苦労様でした。(布上 記)

フロストバレー報告

2018年7月27日~8月13日まで Daynamic Summer(YMCA 海外交流プログラム)の引率で子どもたち20名と共にニューヨーク州にあるフロストバレーYMCAへ行きました。山手線の内側ほどある広大な敷地には多彩なフィールドがあり、また100年以上の歴史と伝統を持つサマーキャンプは北米キャンプ場のモデルとして高い評価を得ているそうです。

私がキャンプで参加した期間には、キャンパーと世界各国から集まったカウンセラー、スタッフを合わせると800名を超える人々がキャンプ生活してました。キャンプは大きく分けると3つあり、現地の子どもたちが参加するメインキャンプ、広大な森を縦走するアドベンチャーキャンプ、日系の子どもたちが参加する東京キャンプの3つです。

この東京キャンプは1979年にスタートしました。当時日本企業の海外駐在員家族の増加を受けて、海外生活をしている日本人の子どもたちが異文化生活でストレスを抱えていることから日本語でのキャンプがスタートしました。

現在でも年間300名を超える日系の子どもたちが参加しています。また、東京-フロストバレーYMCA パートナーシップは2019年には40周年を迎えます。(主事 木村卓司 記)

第49回 「孤独のすすめ」 五木寛之

(中公新書ラクレ：2017.7)



老いを重ねるごとに、孤独感を味わうことになる。もともと、日本人は群れる性質を持つ。会社、サークル、親戚一族、同窓会・・・他者との関係の中で自己を確かめていることが多い。しかし老いと共にそれらの関係から切り離されるとともに孤独と向き合うことになる。その孤独とは

孤立とは異なる。孤立は、他者から完全に切り離されたことを意味しており、孤独とは集団の中にあっても自主独立を確保することである。したがって孤独は決して寂しいものではなくむしろ積極的に楽しむべきだと説いている。以下、6章に渡って『孤独』を進めている。

まず第一章で老いとは諦めることから始めると言う。諦めとは『明らかに究める』と言う意味で、ありのままの自分を直視する事である。人生を登山になぞらえると、青年、熟年期は頂上を目指す登り道であるがやがて下山の時期が来る。下山は、人生の成熟期でもあり登山時とは全く異なる景色が楽しめる。生存欲とは下山時の景色をできるだけ長く見ておきたいと言う欲求に他ならない。第2章では、この下山の意義を述べている。

人は、人生の頂上を極めて、幾多の経験を積み人生と言う山を征服した後、周りの景色を楽しみつつ来し方を回顧し下り坂を一步一步踏みしめて歩む醍醐味もあるはずだと言う。第3章で老人にとっては回想力、想像力が重要であると説く。特に昨今のように人口減少社会に入り、若者との意識差だけではなく経済的な格差も顕在化してくると「嫌老」なる言葉が出てくるようになる。いわゆる豊かな老人と貧しい若者という対立が激化するのである。ここは、老人の豊かな想像力で、若者を理解することが必要だと述べる。第4章では、この世代間対立を階級闘争とまで極論している。この対立軸を解決する手段として、宗教があると言うと続ける。アメリカはすべて唯一である全能の神をすべての社会規範の軸に置いている。これが現在の自由主義経済や民主主義の基礎となっている。一方日本では私の信じる神は一つであるが、ほかの神の存在も認めようとする寛容性・多様性の文化である。これは、筆者の力作である『親鸞』に通じるものがある。

第5章で現在の漠とした不安について述べている。ローマの詩人が退廃的になっていた当時の世相に対して、「パンとサーカス」と言う言葉を残したそうだ。時の権力者が、国民に食料と娯楽さえ与えておけば治まると揶揄したもので、これは一切の批判精神を封じ込めたことに由来している。この状態を

筆者は、「心配停止」と呼んでいる。

最後の第6章で老人族が周りの些細なことに目を向け「気付く」ことの重要性を挙げている。ガラタでもそれぞれに思い出があり、それがきっかけで回想力を磨くことができる。また、若者のちょっとした言動に関心興味を持ち、彼らの本音のサインを見逃さない感受性を養うべきであると。さらに、シルバービジネスや高齢カルチャーの創造、ボランティアなど社会への貢献を意識すれば、嫌老から賢老への転換が可能と結んでいる。

年を経るにしたがって、誰もが「人間不信」と「自己嫌悪」に陥るものである。それを癒し回復させるものこそ、回想力と言う思い出の引き出しを持つことの重要性だと言う。

老境でありながら意気軒昂な著者に、元気付けられるエッセイである。(西澤絢一 記)

YMCA コーナー

▼「西日本豪雨」

全国YMCAが協力し、西日本豪雨災害被災者支援のため、2,500万円の目標額を掲げ募金活動を展開。また被災した小学生を対象としたリフレッシュキャンプも実施する。今後、中長期的な視野に立ち、支援活動を継続していく予定である。

▼「第9回キッズワールドカップ in 韓国」

8月6日～10日、キッズワールドカップ in 韓国がソウルYMCAにて開催され、東京YMCAから小学生7名が参加しました。アジア各国の子どもたちとサッカー試合や懇親プログラムを通して交流を深めました。

▼「夏まつり」8月25日、「夏まつり」が東陽町センターで開催されました。模擬店やこどもコーナー、被災地物品販売など、計14のブースが出展、またジャズバンドの演奏や抽選会も催された。益金は会員活動のために用いられます。

▼「第19回世界YMCA大会」

第19回世界YMCA大会が7月に開催されました。カメルーン、エルサルバドル、モンゴルの加盟が承認された結果、現在YMCAは、世界120の国と地域にあり、会員や職員、参加者など総計約6,500万人が活動していることが、世界YMCA同盟(スイス・ジュネーブ)より発表された。これは175年のYMCAの歴史の中でも最も多い数で、特に30歳以下の若い世代が全体の64%を占めている。

▼今後の行事日程

- ・国際協力一斉街頭募金 9月15日(新宿駅周辺)
- ・第32回インターナショナル・チャリティーラン 9月23日(都立木場公園)
- ・高等学院チャリティーコンサート 9月28日(日本基督教団霊南坂教会)
出演：飯靖子氏(オルガン) 飯頭氏(ヴィオラ)
- ・第35回会員ソフトボール大会 10月8日(出版健康保健組合大宮運動場)
(主事 木村卓司 記)